

年 頭 の 辭

會 長 田 中 清 治

多事多難な昭和 25 年を送り茲に我製鐵業は目出度昭和 26 年の新春を迎え得たことは誠に慶賀の至りである。年頭に當り會員諸君と共に過ぎし一年を顧みると共に覺悟を新にして我製鐵業に對する吾等の重大使命に邁進せんとする次第である。

昨年のは誠に我製鐵業にとつては苦難の時であつた。銑鐵並に鋼材の補給金が減額された上に電力及び屑鐵の値上げが伴い鋼材の需要者價格が著しく値上りとなり、更にポンド爲替レートの引下げによる輸出價格の低落は輸出を減少し滞貨は増加して生産の減少を來たし、合理化による生産費の低下に懸命の努力を拂つたにも拘らず苦境に陥り更に 7 月に入り鋼材補給金の全廢、銑鐵補給金の再減額となり全く危機に直面するに至つた。之は云ふまでもなく我製鐵業の原料事情は戦前よりも一層不利なこと、製鐵設備の大部分は舊式化して非能率なことが主なる原因である。何れも我製鐵業にとつてはその解決容易ならぬものであるが之が解決されない限り我製鐵業は激甚な國際競争に耐え得ないであろう。

この苦境の内に我製鐵業界は終始自立を目指し又苦境に對處し生産費の引下げに懸命の努力を拂つた。業界の合理化、熱經濟合理化を一層強化し、計器による合理的操業に努め又冶金管理を實施し、その結果技術の向上進歩を促し、生産能力の上昇、燃料原單位が著しく低下し製品の品質並に歩留の向上を見た。

4 月には通産省鐵鋼局長の依頼に應じ熱經濟技術部會は全國各地の製鐵工場の熱經濟合理化の現状を調査すると共に技術水準の向上を計る目的で各製鐵工場の技術者より成る視察團を組織し調査と共に技術に關し互に意見の交換を行つた。

2 月下旬には我鐵鋼技術團製鋼、壓延班 4 月下旬にはコークス、製銑班が相次で渡米し各自専門事項を分擔して詳細に米國製鐵業を視察して歸朝するや本會並に各會社の主催にて各所に視察報告會が開催されて米國製鐵技術の進歩を報告し、我製鐵技術の向上、作業の合理化に多大の貢獻をした。本會はこれ等の報告書を纏め米國製鐵業調査報告特輯號を發行した。

本會の各研究部會は何れも活潑なる活動を爲したが 7 月には潤滑技術の向上を目指して更に潤滑部會を設けることになり、その第 1 回潤滑部會を開催した。

6 月 25 日朝鮮動亂が勃發し北鮮軍が突如南鮮に侵入南下して國連軍の出動となり長期戦化するに及び我製鐵業の事情は一變した。即ち世界的軍擴に拍車をかけて輸出の増大となり特需による受注の増加によつて順調なる増産を續け苦境を脱するに至つたのである。この途上に於て 9 月 8 日關西地方を襲つたジェーン颱風は阪神地方に猛威を振り同地方の製鐵工場は甚大な損害を受けたことは誠に遺憾であつたが各工場の非常な努力の結果極めて迅速に復興したことは誠に幸であつた。

時局に恵まれた我製鐵業界はこの好機を利し設備の近代化と擴張計畫を進めているが國際情勢を思ふ時に吾等は慎重なる考慮とかたき決意の下にその完成を祈る次第である。

朝鮮動亂は舊臘數十萬の中共軍が國境を越えて侵入するに及び戦局は逆轉し平和的解決がいよいよ困難視されるに至り世界大戰の危機を孕んで 1950 年は過ぎ去つた。世界の危機は我國の危機である。吾等は年頭に當り先づ國際紛争の平和的解決を祈らざるを得ない又如何なる事態にも應ずる心構を以て我製鐵業に對する重大なる吾等の使命に邁進せんと念願する次第である。